

まちの環境 チェック



健康で安全な生活環境は、私たちみんなの願いです。市では公害のない住みよい生活環境をつくるため、大気汚染や水質汚濁などについて、調査・監視をしています。ここでは、平成18年度の調査結果についてお知らせします。

環境課 (☎ 82-1144)

大気環境



大気汚染物質は、主に工場や自動車等から排出されたり自然現象により生成されたりします。市や県では、降下ばいじん(※1)量、硫黄酸化物、浮遊粒子状物質、窒素酸化物および光化学オキシダント(※2)について常時調査・監視しており、その年次推移は図1～4のとおりで年平均値はほぼ横ばいで推移しています。

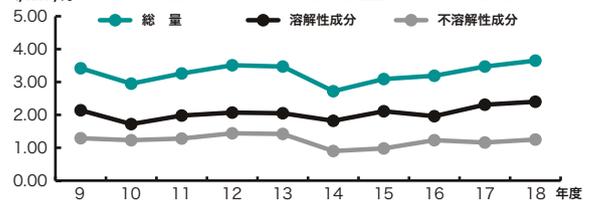
二氧化硫、二酸化窒素はすべての調査地点で環境基準(※3)を達成していますが、光化学オキシダントと浮遊粒子状物質については達成していません。これらの要因としては、工場・事業場や自動車など人為的なものの他、黄砂等の自然起源によるものや気象条件の影響が考えられます。特に近年、季節や気象条件によっては、光化学オキシダントや浮遊粒子状物質の測定値が高くなることが多く増えており、今後も、より良好な大気環境を目指して監視測定を引き続き行います。

(※1) 降下ばいじん 燃料等の燃焼に伴って発生するばいじんや土壌の舞い上がりによる粉じん等のうち、雨や自重によって地上に降下する比較的粒径の大きなものの総称です。

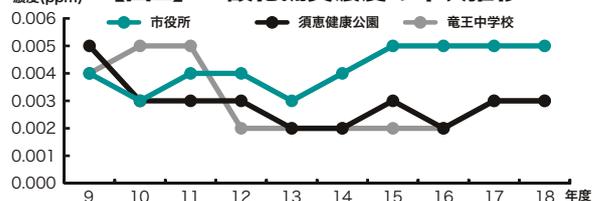
(※2) 光化学オキシダント 光化学スモッグを形成する物質のうち酸化力の強い物質を指す言葉で、目の痛み等の原因になります。

(※3) 環境基準 人の健康の保護および生活環境の保全のうえで維持されることが望ましい基準として国が定めたものです。

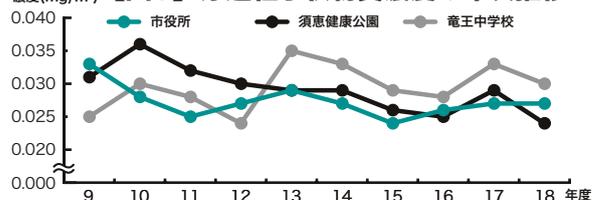
【図1】降下ばいじん量の年次推移



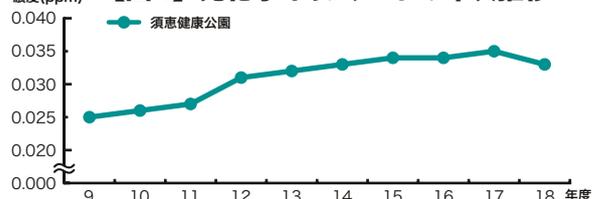
【図2】二氧化硫濃度の年次推移



【図3】浮遊粒子状物質濃度の年次推移



【図4】光化学オキシダントの年次推移



水質環境



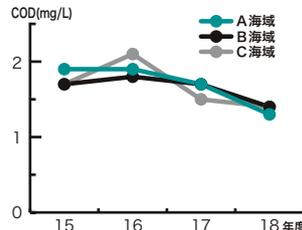
水質汚濁は、主に家庭や工場・事業所からの排水が原因ですが、厚狭川や有帆川では約50%が生活系、25%が産業系によるものです。市では、海域、河川で毎年、定期的に水質の調査を行っており、図5～8は水の汚れ具合を示す水質の年平均値の推移です。海域はCOD(※4)、河川はBOD(※5)で表します。

海域、河川とも年によって若干の増減はありますが、長期的には、ほぼ横ばいで推移しています。平成18年度は各地点で環境基準が達成されています。

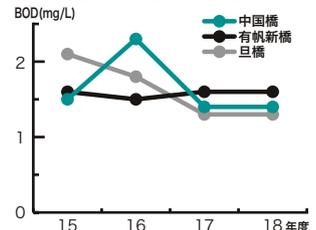
(※4) COD シーオーディー 海域の汚濁を示す指標で薬品による酸素消費量から求めます。

(※5) BOD ビーオーディー 河川の汚濁を示す指標で微生物による酸素消費量から求めます。

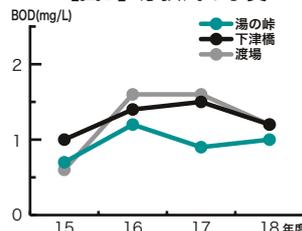
【図5】海域の水質



【図6】有帆川の水質



【図7】厚狭川の水質



【図8】大正川の水質

